



「死語にたくない言葉」

会長 米川 章

最近新聞などで、ら抜き言葉や新造語、流行語、学生言葉などについての議論がされてきましたが、それよりも問題なのは、最近「卑怯」とか「破廉恥」という言葉が通じなくなっていることです。この言葉が辞書から消えたわけではないのに、死語になってしまっています。現在の青少年の非行と呼ばれる間「行動はじめ、「いじめ」などすべてこの二語の欠落からきているように思います。学校教育の中で「恥を知る」教育が十分でなかったことが原因ではないでしょうか。私は弱い者いじめ程卑劣で卑怯な行為はないと思っています。人間として恥ずべきはどのような行為か、卑怯な振る舞いとはどのような行為か徹底的に叩き込まないと駄目であると思います。学校の中だけでは駄目です。社会全体があげてその姿勢でないと効果はないと思います。アメリカの陸軍士官学校での話ですが、卑怯な行為があった場合、「卑怯者」のレッテルは一生つきまとい、仲間から敬遠され昇進にも影響すると言うことです。日本の社会もそれぐらい厳しい姿勢がないと「いじめ」はなくなるかと思えます。

それとマスコミの「学校信頼できず」「学校への信頼揺らぐ」などと一方的に学校不信をおおるような報道は絶対に避けてもらいたいものです。このことについてはいずれ機会を見てお話ししたいものと思えます。

「ノーマライゼーション」



人権を考える集い実行委員会
委員長 宮田 豊

第4回人権の集いには、皆様のご理解とご協力によって、盛会のうちに終了することができましたことを厚くお礼申し上げます。

テーマ「いじめと人権を考える」と題して、講演に大阪市より山中多美男講師をお迎え致しました。「ノーマライゼーション」、聴き馴れない言葉であります。意味は、高齢者も、障害者もそうでないものも、すべて人間として普通の生活を送るため、共に暮らし、共に生きぬくような社会こそ、ノーマルである、という考え方である。と知りました。

普通の生活を送る、当たり前だがなかなかできない、親が我が子の長所を認めて育てていく、子どもの立場では当然のことが、親の期待が重圧となればいじめの遠因ともなる…。又、子育てについて体験を通してのお話が良き結果の事例を語っております。

今回人権問題を学ぶ良き機会となりました。



吉原小学校体育館
十月十三日

「まちがった考えや偏見を子どもや孫に伝えないこと」

年間活動テーマ

本年度上半期の活動を振り返って

「同推協地区懇談会開催される」

今村まき江

本年度のテーマ「まちがった考えや偏見を子どもや孫に伝えないこと」を基に、7月中旬から9月末にかけて、各地区で懇談会が開催されました。

最初に映画「私達と人権-家庭編」を鑑賞後、少人数のグループに分かれて家庭生活や近所付き合い、結婚に関することや六曜そして習慣、職場や職業等について活発な意見が交わされました。

懇談の場では気づかされる点が多々ありました。人は誰でも無意識のうちにまわりの人々に差別的、偏見的な考えや見方をしてしまいがちですが、それに気づく事が大切です。たとえば日常の習慣的なものや六曜等は、不合理な所があると分かっていてもまわりに気を遣ってしまいます。職業や学歴も同じではないでしょうか。

人はお互いに相手を認めて思いやる心が必要です。子どもは身近な人から何事でも吸収して成長していきます。責任ある行動で接しなければ改めて深く考えさせられました。



「四同研への提案発表」

近藤好仁

8月20日に、四日市文化会館・じばさん三重をメイン会場に、第17回四日市同和教育研究大会（四同研大会）が開催され、海蔵地区同推協は第9分科会において、「理解を深めるために」と題してこれまでの実践を発表しました。

1992年に実施しました住民意識調査の結果、実際に被差別地区住民に友人などをもつ人は正しい理解を示し、そうでない人に誤った偏見などが多いことが分かりました。また数々の研修会を重ねても、被差別地区を持たない当地区では、今でもそんなことがあるのかという疑問もあり、被差別地区を持つ同推協と交流して、差別の現実には学び理解を深める必要があると考えました。そして、昨年より神前同推協と交流を始めました。まだ3回ほどの交流会を持ったのですが、被差別地区の人の生の声は、人の心を動かししました。これからの課題は、この感動をどう広めどう伝えて、誰かが住みよい社会にしていけるかでしょう。

「地域交流会に参加して」



堀部美代子

9月22日神前地区市民センターにて、神前同推協役員8名と海蔵同推協役員9名の出席で地域交流会が行われました。昨年に引き続きお互いに顔なじみの人も多く、和気あいあいと話合いが行われました。山下副会長より最近いろいろな問題が起こっている（落書きのこと、言葉の差別、被差別出身ではないのに事故を起こしたときその出身だからと言って脅したり）という話を聞き、被差別の人々の切実なことがよく分かりました。このようなことが起こらないように被差別の人々に対して私たちが出来ることは、正しい知識と理解だと思えます。一人ひとりの認識がなくてはいつまでたっても解決できるはずはないと思えます。これから委員、役員だけではなく一人でも多くの人に理解していただくように地域交流をより一層深めていきたいと思えます。次回は神前の方がこちらへ交流に見えますのでその時は一人でも多く参加していただきますようお願いいたします。

ご意見とお寄せください（海蔵地区市民センター内事務局）